

第1回 金山駅周辺まちづくり推進会議

日時：令和5年7月10日(月)9時30分～

場所：Web会議

議 題

- 1 金山駅周辺まちづくり推進会議の設置について
- 2 検討状況



【資料】

会議次第

資料1-1 金山駅周辺まちづくり推進会議の設置について

資料1-2 金山駅周辺まちづくり推進会議設置要綱

資料2 検討状況



(参考資料1) 所管事務調査資料(令和3年12月6日 経済水道委員会)

(参考資料2) 所管事務調査資料(令和4年12月22日 都市消防委員会)

第1回 金山駅周辺まちづくり推進会議

出席者名簿

局	役職	氏名	出欠 (予定)	代理出席者	
				役職	氏名
—	副市長	中田 英雄	出席		
—	副市長	松雄 俊憲	出席		
—	副市長	杉野 みどり	出席		
防災危機管理局	防災危機管理局長	酒井 雄一	出席		
総務局	総務局長	杉浦 弘昌	出席		
財政局	財政局長	太田 宜邦	出席		
観光文化交流局	観光文化交流局長	佐治 独歩	出席		
住宅都市局	住宅都市局長	日下 雄介	出席		
緑政土木局	緑政土木局長	河田 誠一	欠席	公園緑地・農政監	山田 好人
上下水道局	上下水道局長	横地 玉和	出席		
交通局	交通局長	折戸 秀郷	出席		
中区役所	中区長	平田 一之	出席		

○事務局

住宅都市局まちづくり企画課
観光文化交流局文化芸術推進課

金山駅周辺まちづくり推進会議の設置について

1. 目的

『人・文化・芸術とともに育つまち』をコンセプトとしたウォークアブルなまちづくりを実現するため、「金山駅周辺まちづくり推進会議」を設置し、市内における結束力を高め、多岐にわたる事業調整の円滑化を図る。

2. 所掌事務

- (1) 金山駅周辺まちづくりの推進に係る検討・調整
- (2) 新たな劇場の整備に係る検討・調整
- (3) その他必要な事項

3. 組織等

◆推進会議【局長級】

会 長：中田副市長（住宅都市局主管副市長）
副会長：松雄副市長、杉野副市長
委 員：防災危機管理局長、総務局長、財政局長、観光文化交流局長、
住宅都市局長、緑政土木局長、上下水道局長、交通局長、中区長
事務局：住宅都市局まちづくり企画課、観光文化交流局文化芸術推進課

◆幹事会【部長級】

- ・推進会議の所掌事務に関する調整、整理を実施
会長：住宅都市局まちづくり調整監
委員：要綱参照

◆部会【課長級】

- ・幹事会の協議事項に関する詳細な検討・調整を実施
会長：住宅都市局都市整備部長
委員：要綱参照

金山駅周辺まちづくり推進会議設置要綱

(目的)

第 1 条 金山駅周辺まちづくりを全庁的に連携して推進するため、金山駅周辺まちづくり推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 推進会議は、次の事項を所掌する。

- (1) 金山駅周辺まちづくりの推進に係る検討・調整
- (2) 新たな劇場の整備に係る検討・調整
- (3) その他必要な事項

(組織)

第 3 条 推進会議に会長、副会長及び委員を置く。

- 2 会長は、住宅都市局主管副市長とし、副会長はその他の副市長とする。
- 3 委員は別表 1 に掲げる職にある者とする。
- 4 会長に事故があるときは、副会長がその職務を代理することができる。

(会議)

第 4 条 会長は、必要の都度、会議を招集し議長を務める。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(幹事会)

第 5 条 推進会議の所掌事務に関する調整、整理を行うため、幹事会を設置する。

- 2 幹事会に幹事長及び幹事を置く。
- 3 幹事長、幹事は別表 2 に掲げる職にある者とする。
- 4 前条の規定は、幹事会について準用する。この場合において、前条中「会議」とあるのは「幹事会」と、「会長」とあるのは「幹事長」と読み替えるものとする。

(部会)

第6条 幹事会の協議事項に関する詳細な検討・調整を行うため、部会を設置する。

2 部会に部会長及び部会員を置く。

3 部会長、部会員は別表3に掲げる職にある者とする。

4 部会の招集その他の事項は、第4条中「会議」とあるのは「部会」と、「会長」とあるのは「部会長」と読み替えて、同条の規定を準用する。

(事務局)

第7条 推進会議及び幹事会及び部会の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、第2条第1項第1号に定める事項については住宅都市局都市整備部まちづくり企画課に、同項第2号に定める事項については観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課に置き、同項第3号に定める事項については、まちづくり企画課と文化芸術推進課がその都度協議して定めるものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営その他必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、令和5年6月15日から施行する。

別表 1

委員	防災危機管理局長 総務局長 財政局長 観光文化交流局長 住宅都市局長 緑政土木局長 上下水道局長 交通局長 中区長
----	---

別表 2

幹事長	住宅都市局まちづくり調整監
幹事	防災危機管理局次長 総務局企画部長 総務局総合調整部長 財政局参事（資産経営） 観光文化交流局文化歴史まちづくり部長 住宅都市局都市計画部長 住宅都市局参事（交通企画） 住宅都市局建築指導部長 住宅都市局都市整備部長 緑政土木局路政部長 緑政土木局緑地部長 上下水道局技術本部計画部長 交通局営業本部企画財務部長 交通局営業本部営業統括部長 交通局営業本部電車部長 交通局営業本部自動車部長 交通局技術本部施設部長 中区区政部長

別表 3

部会長	住宅都市局都市整備部長
部会員	防災危機管理局危機対策室長 総務局企画部企画課長 総務局総合調整部総合調整室長 財政局財政部資産経営課長 財政局財政部主幹（資産経営） 観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課長 観光文化交流局文化歴史まちづくり部主幹（文化施設に係る企画調整等） 住宅都市局主幹（企画調整） 住宅都市局都市計画部都市計画課長 住宅都市局都市計画部主幹（防災・都市施策） 住宅都市局都市計画部街路計画課長 住宅都市局都市計画部ウォークブル・景観推進室長 住宅都市局都市計画部交通企画課長 住宅都市局都市計画部主幹（駐車場のあり方検討） 住宅都市局建築指導部建築指導課長 住宅都市局都市整備部まちづくり企画課長 緑政土木局主幹（企画） 緑政土木局路政部道路利活用課長 緑政土木局緑地部緑地管理課長 上下水道局技術本部計画部主幹（雨水対策の総合調整） 交通局営業本部企画財務部主幹（企画調整・外郭団体） 交通局営業本部営業統括部資産活用課長 交通局営業本部電車部駅務課長 交通局営業本部電車部主幹（施設管理） 交通局営業本部自動車部路線計画課長 交通局営業本部自動車部自動車施設課長 交通局技術本部施設部施設計画課長 交通局技術本部施設部工務課長 中区区政部地域力推進室長

1. 金山駅周辺のまちづくりについて

○まちづくりのコンセプト

人・文化・芸術とともに育つまち
～にぎわいと感性あふれる交流創造の場づくり～

○目指す姿

都市機能の集積	交通結節点である金山のポテンシャルを活用し、駅前に都市機能を効果的に集積させ、にぎわいや交流の更なる発展を図る。
ウォーカブルなまちの形成	道路や公園・オープンスペース等の都市基盤をウォーカブルなまちに資する形態へ再編し、アスナル金山の持つ界限イメージを地区全体に継承し展開を図る。
劇場とまちとの連続性の確保	市民会館や都市基盤のリニューアルにより、まちに開かれた新たな劇場とまちとの連続性を確保し、文化芸術との交流を育むことで金山らしさの発展・拡大を図る。

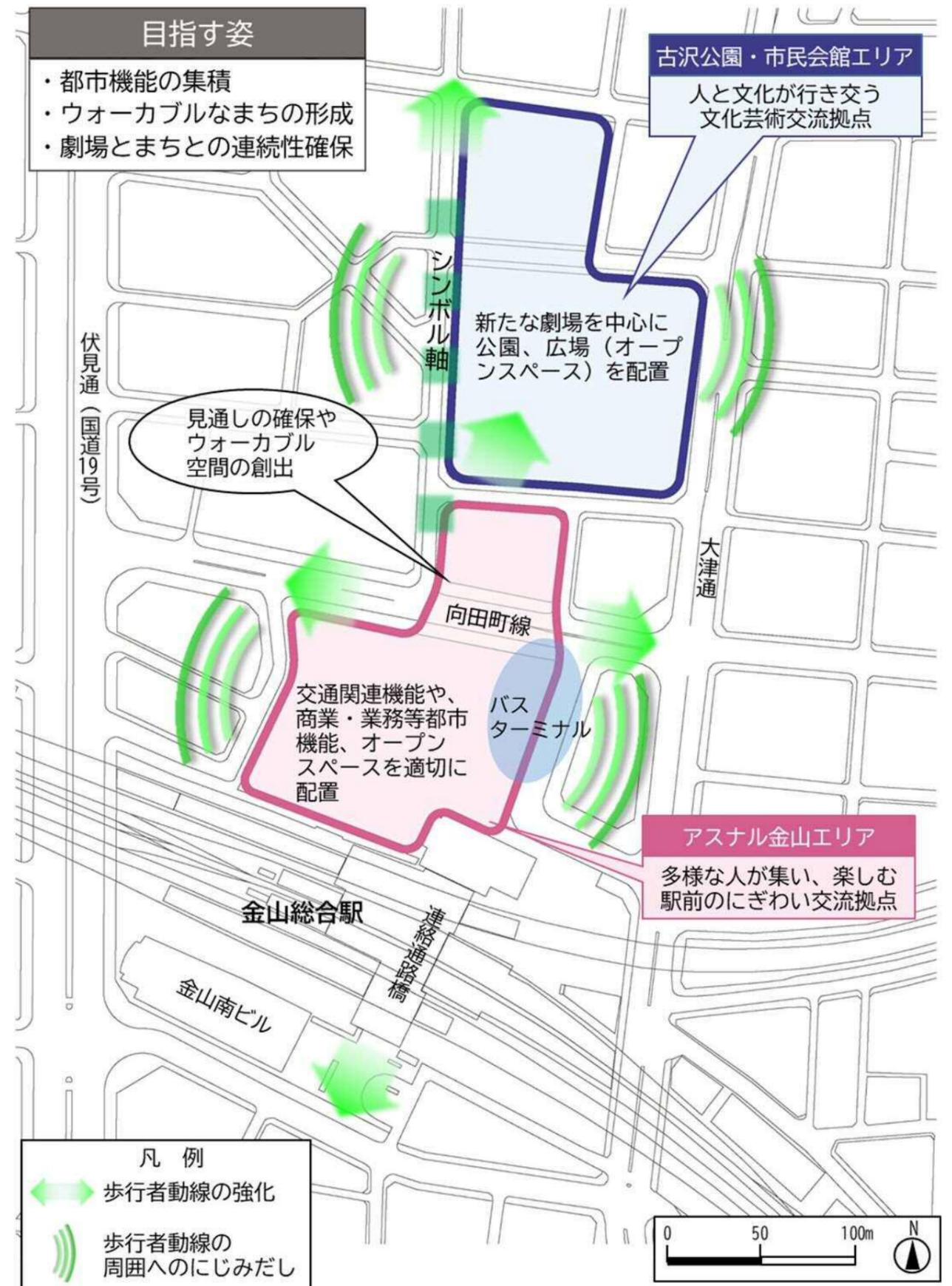
2. 検討経緯

時期	内容	主管局
令和3年12月	「市民会館の改築に向けた考え方について」 (経済水道委員会 所管事務調査)	観光文化交流局
令和4年2月	「名古屋市新たな劇場の基本構想」策定	観光文化交流局
令和4年12月	「金山駅北地区のまちづくりについて」 (都市消防委員会 所管事務調査)	住宅都市局
令和4年度～	「名古屋市新たな劇場の基本計画」検討	観光文化交流局
	「金山駅周辺まちづくりの推進」事業化検討	住宅都市局

4. 市民会館整備の基本的な考え方

区分	内容
機能性に優れた劇場	本市の文化芸術を象徴する施設として、従来の劇場機能に加え、最新機能・設備を導入し、質の高い公演や先駆的な演目に対応できる劇場を目指す。また、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい劇場を目指す。
アプローチ環境 (周辺市街地含む)	劇場周辺市街地との一体的なまちづくりの観点から、まちの回遊性が促進され、まちの魅力を増幅させるアプローチ環境を検討する。
劇場不足解消に向けた 新ホールの増設	大・中規模ホール不足が文化芸術にもたらす様々な弊害の解消に向けて、ポストコロナ時代を見据えた機能を備える新ホールを増設し、新たな魅力の創出を目指す。
新型コロナウイルス 感染症の影響を踏まえた 劇場施設	従来からの劇場の魅力を維持しつつ、既存の概念にとらわれない、新たな劇場の考え方を導入する。

3. まちづくりの方向性のイメージ



経済水道委員会

説明資料

市民会館の改築に向けた考え方について

令和3年12月6日
観光文化交流局

	頁
1 概要……………	1
2 現状と課題……………	1
3 「市民会館の整備検討懇談会」の概要……………	3
4 改築に向けた考え方……………	4
5 今後の予定……………	6

1 概要

区 分	内 容
所在地	名古屋市中区金山一丁目5番1号
開館年月	昭和47年10月
面 積	・敷地面積：14,205㎡ ・建築面積：9,370㎡ ・延床面積：28,245㎡
主な施設内容	地上6階、地下2階、塔屋1階建 ・大ホール（フォレストホール）：2,291席 ・中ホール（ビレッジホール）：1,146席 ・第1リハーサル室：151㎡ ・第2リハーサル室：117㎡ ・第1会議室：179㎡ ・第2会議室：64㎡ ・特別会議室：54㎡
管理運営	共立・名古屋共立共同事業体（指定管理者）

2 現状と課題

(1) 近年の利用率

区 分	内 容
平成28年度	・大ホール：92.2% ・中ホール：96.4%
平成29年度	・大ホール：97.5% ・中ホール：97.8%
平成30年度	・大ホール：99.4% ・中ホール：99.0%

注 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用率が減少した令和元年度及び令和2年度を除く

(2) 近年閉館した市内の大、中規模ホール

区 分	内 容
愛知厚生年金会館	・閉館：平成20年 ・席数：1,666席
愛知県勤労会館	・閉館：平成22年 ・席数：1,488席
名鉄ホール	・閉館：平成27年 ・席数：926席
中日劇場	・閉館：平成30年 ・席数：1,420席

(3) 課題

区 分	内 容
利用状況	<ul style="list-style-type: none">・大ホール、中ホールとも利用率が高止まりしており、抽選倍率も高いことから、公演を断念する興行主が数多く発生し、市民の鑑賞機会損失が生じている・市内の大、中規模ホールが不足しており、場所を確保するため利用実態より大きなホールへの利用申し込みが増加し、施設の高稼働状態が解消しない
施設・設備面	<ul style="list-style-type: none">・開業後49年が経過し、老朽化が著しく電源・空調・給排水管等の基幹部分の故障や不具合が多発・来場者動線に階段が多いものの、施設の構造上バリアフリーに限界があり、介添なしに客席へ移動できない・トイレの絶対数が不足のうえ男女比も利用実態と乖離しており、幕間にはトイレ前に行列が発生・バックヤードの動線に段差が多く、通路幅も狭い・大ホールと中ホールが壁一枚で隣接しており、相互の音、振動が伝播してしまう・敷地内に地下鉄が通っており騒音、振動が舞台や客席に伝播してしまう

3 「市民会館の整備検討懇談会」の概要

(1) 設置目的

本市の文化振興における中核施設として今後の市民会館に期待される役割、必要な規模・機能等について、外部有識者等から意見を聴取し整備の方向性をとりまとめるため

(2) 懇談会メンバー

- ・有識者委員：学識者3名、文化施設関係者2名、施設利用者7名、本市職員（観光文化交流局文化歴史まちづくり部長）1名
- ・オブザーバー：本市職員（住宅都市局都市整備部長）1名、公益財団法人名古屋市文化振興事業団職員1名

(3) 開催概要

区分	開催日	内容
第1回	令和元年 8月 6日	市民会館の現状及び課題整理
第2回	令和元年 8月23日	ホールを核としたまちづくりの事例
第3回	令和元年10月29日	新たな劇場の目指す姿
第4回	令和元年12月16日	新たな劇場の施設構成（案）
第5回	令和2年 7月28日	文化芸術の裾野拡大に向けた管理運営の検討
第6回	令和2年10月19日	新たな劇場の管理運営検討、施設構成（案）
第7回	令和2年11月16日	新たな劇場の基本構想（素案）
第8回	令和3年 3月22日	新型コロナウイルス感染症の影響と対策
第9回	令和3年 6月 7日	新たな劇場の基本構想（素案）
第10回	令和3年度中	新たな劇場の基本構想 策定

4 改築に向けた考え方

(1) 基本理念

区 分	内 容
ミッション	文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透） <ul style="list-style-type: none"> 文化芸術に対する市民の興味を喚起し、これまで劇場に関心がなかった市民にもその魅力を届け、劇場文化を市内に幅広く浸透させる
位置づけ	人々が楽しみ、引き込まれ、心打たれる文化の薫り高い名古屋の心つながる象徴拠点 <ul style="list-style-type: none"> 本市の文化芸術を象徴するランドマークとなり、国内外から多くの人々が訪れるデスティネーションを目指す 実演者・鑑賞者だけでなく、市民にとって「名古屋の誇り」となる 「文化芸術が活きるまち名古屋」の中核施設として市内の文化振興をけん引
役 割	<ul style="list-style-type: none"> ポップからハイカルチャーまで、より多くの人々が興味を引き起こされる公演の上演施設 市民の多様な文化活動を支え、促進する、名古屋発／初文化の中核となる施設 市民が気軽に訪れる、人と文化の交流結節拠点

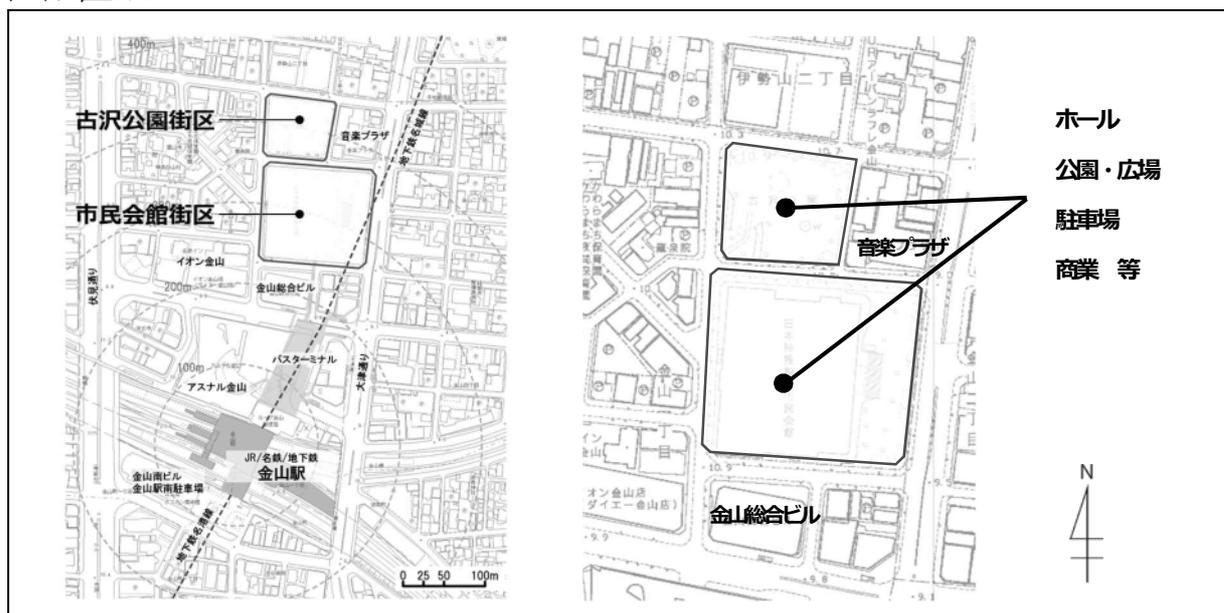
(2) 施設整備の基本的な考え方

区 分	内 容
機能性に優れた劇場	本市の文化芸術を象徴する施設として、従来の劇場機能に加え、最新機能・設備を導入し、質の高い公演や先駆的な演目に対応できる劇場を目指す。また、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい劇場を目指す
アプローチ環境 (周辺市街地含む)	劇場周辺市街地との一体的なまちづくりの観点から、まちの回遊性が促進され、まちの魅力を増幅させるアプローチ環境を検討する
劇場不足解消に向けた新ホールの増設	大・中規模ホール不足が文化芸術にもたらす様々な弊害の解消に向けて、ポストコロナ時代を見据えた機能を備える新ホールを増設し、新たな魅力の創出を目指す
新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた劇場施設	従来からの劇場の魅力を維持しつつ、既存の概念にとらわれない、新たな劇場の考え方を導入する

(3) 施設構成 (案)

区分	内容	
第1ホール	基本コンセプト	聴くホール
	規模・性格	<ul style="list-style-type: none"> ・2,000～2,200席 ・軽音楽、クラシック等 ・プロセニウム
第2ホール	基本コンセプト	観る・魅せるホール
	規模・性格	<ul style="list-style-type: none"> ・1,300～1,500席 ・邦舞、洋舞等 ・プロセニウム
第3ホール	基本コンセプト	体感するホール
	規模・性格	<ul style="list-style-type: none"> ・800～900席 ・演劇等 ・平土間
ホール以外の施設	基本コンセプト	あらゆる人々の交流結節点
	性格	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル室、練習室等 ・共有空間 (フリースペース等) ・隣接施設 (カフェ、公園等)

(4) 配置イメージ



5 今後の予定

区 分	内 容
令和3年度	「新たな劇場の基本構想」策定
令和4年度～	「新たな劇場の基本計画」策定 公募準備、公募、事業者選定、設計、工事、竣工

都市消防委員会 説明資料(2)

令和4年12月22日

住宅都市局

目次

金山駅北地区のまちづくりについて

	頁
1 背景等	1
(1) 背景	1
(2) 金山駅周辺の現況図	2
(3) 金山駅北地区の課題等	3
ア 再整備にあたっての課題	3
イ 再整備の必要性	3
2 金山駅北地区の整備の考え方	4
(1) 趣旨・位置付け	4
(2) まちづくりのコンセプト	4
(3) まちづくりの方向性	4
ア 目指す姿	4
イ エリアの考え方	5
ウ 歩行者動線・車両動線の考え方	5
エ 実現手法の考え方	5
オ まちづくりの方向性イメージ	6
(4) アスナル金山エリア	7
ア 整備内容	7
イ 配置する機能	7
(5) 古沢公園・市民会館エリア	8
ア 整備内容	8
イ 整備の考え方	8
(6) ウォーカブル空間の形成	8
(7) エリアマネジメントの展開	8
(8) 主な配慮すべき視点	9
3 今後の整備フロー	10

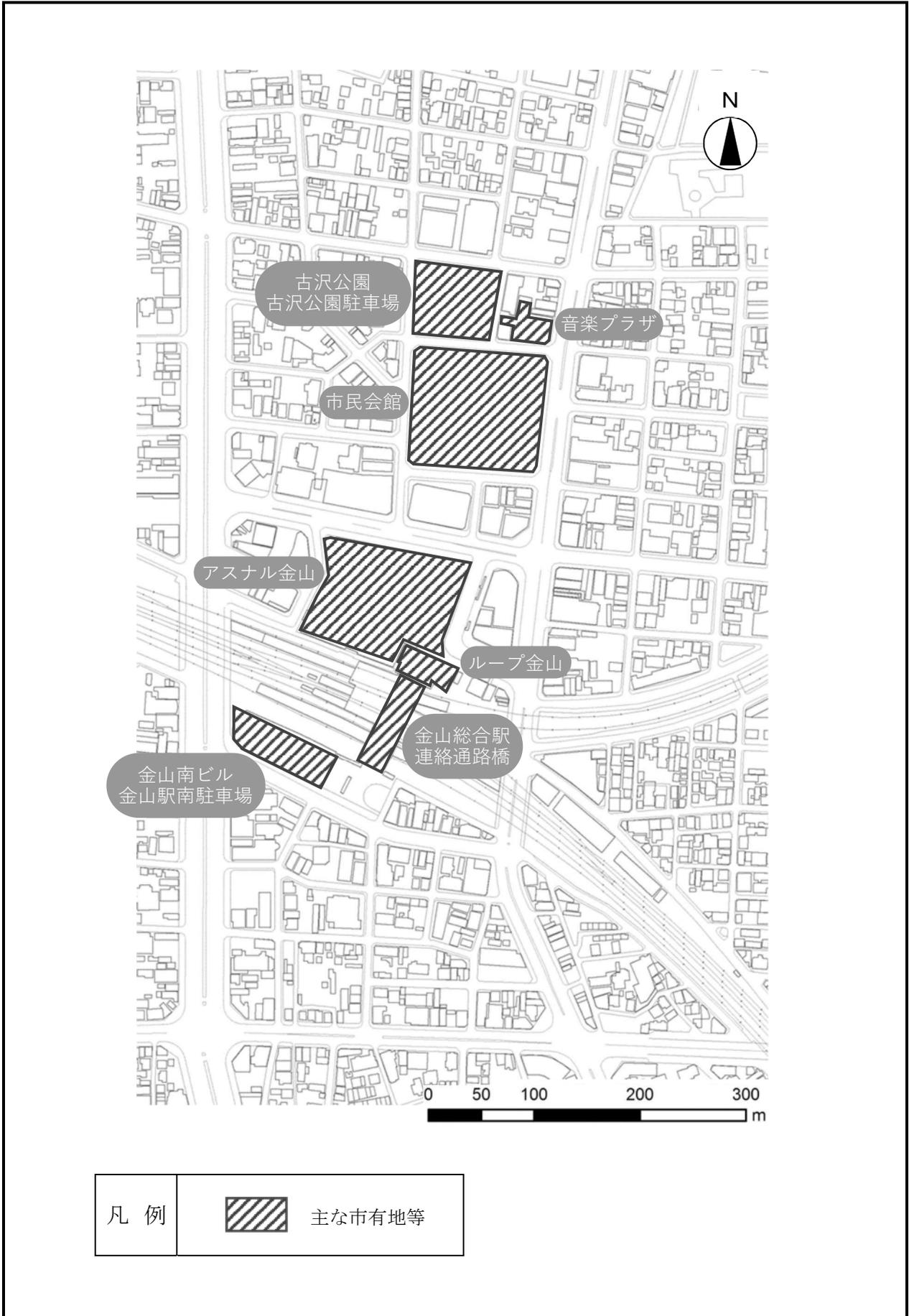
金山駅北地区のまちづくりについて

1 背景等

(1) 背景

リニア中央新幹線の開業	三大都市圏が一体化し、世界最大の広域経済圏であるスーパーメガリージョンが形成される。	
多核的な拠点の形成	三大都市圏の中核として名古屋を発展させていくため、金山の拠点性をさらに強化し、名古屋駅・栄とあわせて多核的な拠点の形成を図る必要がある。	
市内有数の交通結節点	金山総合駅は市内有数の交通結節点であるとともに、中部国際空港に直結しており、乗降客数は中部圏第2位の48万人／日に上る。	
金山駅周辺における開発の流れ	昭和47年	市の人口200万人突破を記念し、名古屋市民会館が開館
	平成元年	金山総合駅が開業し、市の南の玄関口としての拠点性が強化
	平成11年	金山南ビルが開業し、あわせて南口駅前広場を整備
	平成17年	土地の暫定活用を図るため、アスナル金山が開業

(2) 金山駅周辺の現況図



(3) 金山駅北地区の課題等

ア 再整備にあたっての課題

地 区 ポテンシャル	中部国際空港からのインバウンドやリニア開業による来街者の増加が見込まれるなか、市内各所に加え、中部国際空港に直結し、ものづくり産業が集積する西三河や岐阜方面との結節拠点でもある地理的な優位性を、最大限に活かす必要がある。
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none">金山駅周辺の指定容積率が500～800%であるのに対し、街区別の容積充足率は40～50%に留まり、土地の高度利用がされていない状況にある。周辺建物の老朽化等の課題を抱えているが、建替え等による機能更新が進んでおらず、民間開発の促進が求められている。
回 遊 性	駅前や商店街等を中心に商業施設が集積し、一定のにぎわいがあるものの、来街者の行動範囲は駅を中心に限定的であり、回遊性の拡大が求められている。

イ 再整備の必要性

アスナル金山	<ul style="list-style-type: none">界隈性を有する商業施設として、地域のにぎわい創出に貢献している。オープンスペース「明日なる！広場」は、ステージを中心とした多数のイベント開催等によりにぎわいづくりに寄与している。来街者の回遊性を周辺街区へ拡大させる効果は、一定の範囲に留まっている。令和10年2月の事業用定期借地の期間終了を控え、本格整備により地域のにぎわいをより一層高めることが求められている。
市 民 会 館	<ul style="list-style-type: none">昭和47年の開館以降、文化芸術や創造によるにぎわい形成に大きく寄与している。開館から約50年が経過し、老朽化やバリアフリー等への対応のため、改築が必要となっている。令和4年2月に観光文化交流局が「名古屋市新たな劇場の基本構想」を策定した。

2 金山駅北地区の整備の考え方

(1) 趣旨・位置付け

「名古屋市都市計画マスタープラン2030」に位置付けられている金山まちづくりの具体化を図るため、金山駅北側にある市有地を中心とした整備の考え方を示す。

(2) まちづくりのコンセプト

人・文化・芸術とともに育つまち
～ にぎわいと感性あふれる交流創造の場づくり ～

(3) まちづくりの方向性

ア 目指す姿

都市機能の集積	交通結節点である金山のポテンシャルを活用し、駅前に都市機能を効果的に集積させ、にぎわいや交流の更なる発展を図る。
ウォーカブルなまちの形成	道路や公園・オープンスペース等の都市基盤をウォーカブルなまちに資する形態へ再編し、アスナル金山の持つ界限イメージを地区全体に継承し展開を図る。
劇場とまちとの連続性確保	市民会館や都市基盤のリニューアルにより、まちに開かれた新たな劇場とまちとの連続性を確保し、文化芸術との交流を育むことで金山らしさの発展・拡大を図る。

イ エリアの考え方

アスナル金山 エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ アスナル金山街区と向田町線北側街区において、金山総合駅と新たな劇場を繋ぐ空間を形成する。 ・ 交通利便性を活かし、様々な都市機能を高度に集積させ、多様な人が集い楽しむ駅前のにぎわい交流拠点を目指す。
古沢公園・市民 会館エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民会館街区と古沢公園街区を一街区化することにより、新たな劇場と公園による魅力あふれる空間を形成する。 ・ まちに開かれた新たな劇場を中心に、人と文化が行き交う文化芸術交流拠点を目指す。

ウ 歩行者動線・車両動線の考え方

歩行者動線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地上レベルの回遊性を向上させるため、歩行者動線の強化や滞留空間の創出を図る。 ・ 新たな金山駅北地区のにぎわいの象徴となるよう、東雲東古渡町線をシンボル軸として位置づける。 ・ 駅から新たな劇場までの見通しの確保により、魅力的な景観の形成を図る。 ・ 歩行者動線の強化により、周囲へのにじみだしを図る。
車両動線	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウォークアブルなまちの形成を見据えた適切な車両動線とする。 ・ 交通結節点としての利便性確保のため、公共交通の自動車動線を確保する。

エ 実現手法の考え方

官民連携手法の 導入	民間事業者のノウハウや資金を活用し、豊かな発想の民間提案を取り入れ、にぎわいあふれる魅力的なまちの形成を図る。
エリア マネジメント	地域のまちづくり団体や都市再生推進法人等による公共空間の適切な維持管理と利活用により、金山らしい特色あるまちの運営を図る。
駅南側との連携	駅北側の開発をより効果的なものとするため、駅南側との連携を強化し、駅周辺全体の回遊性向上やにぎわいの創出を図る。



(4) アスナル金山エリア

ア 整備内容

- ・ 中部圏第2位の交通結節点である駅前に相応しい、多様なニーズに対応した交通関連機能の再配置を行う。
- ・ 将来の金山駅前に必要となる様々な都市機能を高度に集積させつつ、アスナル金山のにぎわいや限界性を継承し都市魅力を高めるよう、駅とまちとの接点になる低層部にオープンスペースを配置する。
- ・ アスナル金山街区周辺においては、にぎわいをつなぐオープンスペースの配置や駅から劇場へつながる見通しの確保等、まち全体への回遊性向上に資するウォークアブル空間を創出することにより、人々をまちへ誘引する連結拠点としての活用を目指す。

イ 配置する機能

交通関連機能	<ul style="list-style-type: none">・ 利用者の利便性向上等、交通結節点としての機能強化を図る。・ バスターミナル、タクシーや一般車の乗降施設、自転車駐車場等を適切に配置する。・ エリア内の既存地下鉄出入口を機能として担保しつつ、商業や業務等の都市機能との連携強化について検討する。
都市機能	駅からの連続性や周辺の商業施設等との配置に配慮した商業・業務等の導入を図る。
オープンスペース	<ul style="list-style-type: none">・ 駅から新たな劇場までの視覚的、動線的に重要な空間とするとともに、防災面での機能を発揮できるよう、駅前に十分な空間の確保を検討する。・ 商業機能等との一体性が高い配置としつつ、ステージ等のにぎわい施設の拡充により駅利用者をまちに引き出す機能の強化を図る。

(5) 古沢公園・市民会館エリア

ア 整備内容

まちに開かれた劇場を中心に地域住民や来街者が利用する公園、広場（オープンスペース）を適切に配置することにより、魅力的なエリアを形成する。

イ 整備の考え方

新たな劇場	<ul style="list-style-type: none">・ 総合的な文化芸術交流拠点として、誰もが気軽に訪れる開かれた劇場を目指す。・ 劇場周辺市街地との一体的なまちづくりの観点から、まちの回遊性が促進され、まちの魅力を増幅させるアプローチ環境を検討する。
公園、広場（オープンスペース）	<ul style="list-style-type: none">・ 現在の古沢公園が有している機能の確保を図る。・ 観光文化交流局と連携し、日常的に市民が利用できる街区公園の機能は、新たな劇場の整備にあわせ、エリア内北側に配置する方向で検討する。・ 公園、広場（オープンスペース）は、新たな劇場と景観・意匠など調和を図る。

(注) 新たな劇場の整備の考え方は「名古屋市新たな劇場の基本構想」より引用

(6) ウォークブル空間の形成

東雲東古渡町線（シンボル軸）	既存の緑豊かな道路空間を継承し、沿道の市有地や宅地と連携した居心地の良い歩行者空間を目指す。
向田町線、古沢町線支線第4号線（一部区間）	アスナル金山エリアの整備と連携し、まちのにぎわいや歩行者の回遊性向上に資する歩行者空間の拡大を検討する。

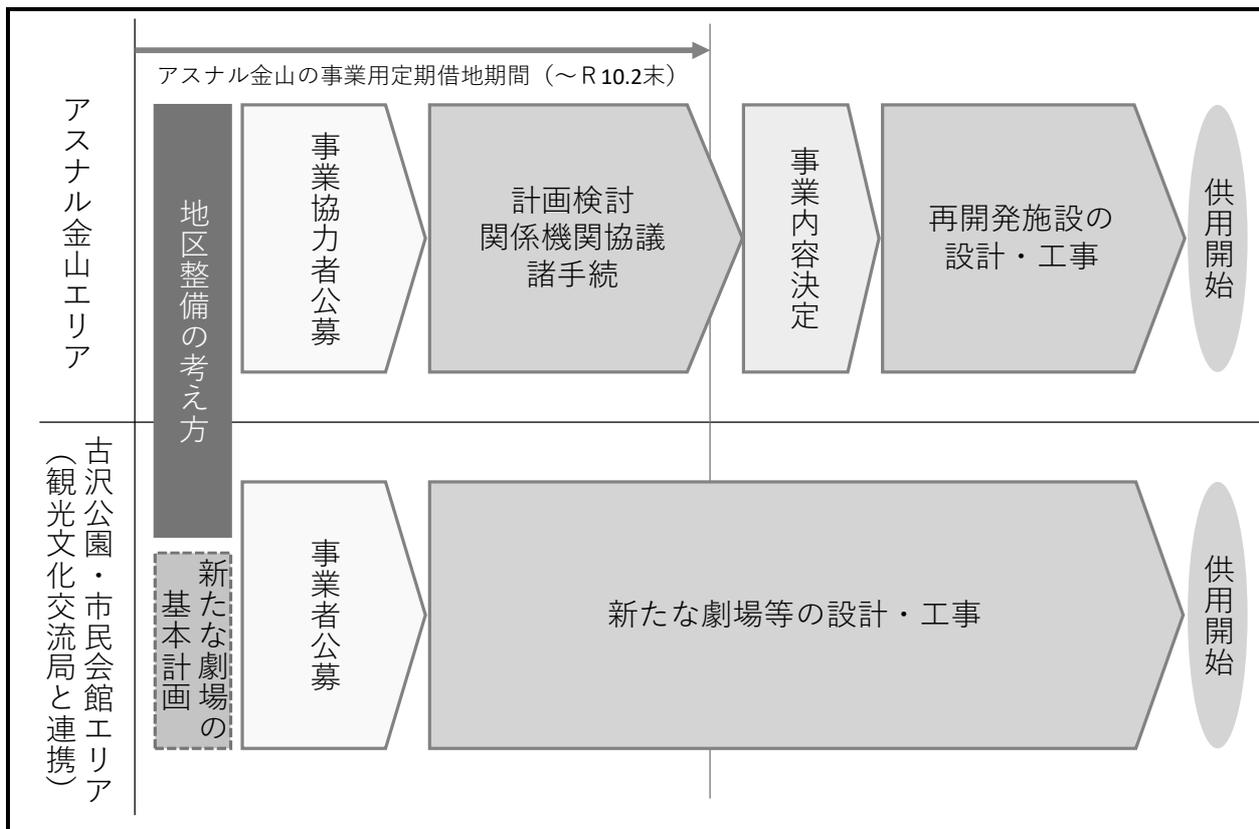
(7) エリアマネジメントの展開

- ・ にぎわい創出や人をまちへ誘引する仕掛けとなるよう、駅からの動線を意識しつつ地域と連携したエリアマネジメント活動が実施できる空間の創出を図る。
- ・ エリアマネジメントにより、安全で快適な環境や魅力的な景観が持続的に維持、発展できるよう、地域と協働して取り組む。

(8) 主な配慮すべき視点

環 境	まち全体の緑被率を上げる取組みや、温室効果ガス排出量を削減する取組み等による、環境に配慮したまちづくり
ユニバーサル デザイン	高齢者や体の不自由な人をはじめすべての人の利用に配慮した、訪れた誰もが使いやすい交通結節点としての機能確保
情 報 提 供	平時・災害時いずれにも対応可能な情報提供機能の充実による、にぎわいや回遊性の向上及び災害時の滞在者・来訪者の安全確保
防 災	金山駅周辺地区エリア防災計画に基づく退避施設の拡充等、帰宅困難者対策への配慮
駐 車 場	エリア周辺の駐車場需要や施設計画を踏まえた、適切な規模の駐車場の配置
土 地 の 有 効 利 用	都市再生緊急整備地域の指定等、市有地周辺における民間開発の促進による、都市機能の高度化及び居住環境の向上

3 今後の整備フロー



備考1 適切な時期に、必要となる都市計画手続等、諸手続きを実施する。

2 事業スキームは、今後、観光文化交流局とともに検討する。

3 このフローは、事業スキームの検討結果により、今後、変更となる可能性がある。